

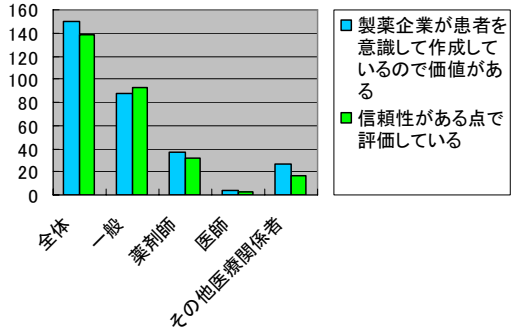
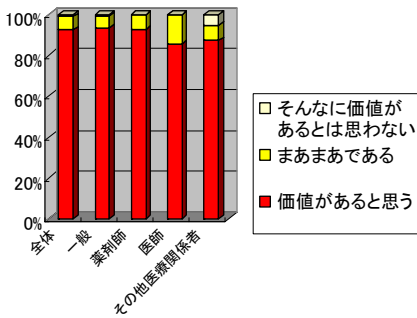
「対話のある医療」を目指して

—新版「くすりのしおり®」が医療担当者と患者に

十分に活用されるための調査報告—

東京都 くすりの適正使用協議会（情報委員会）池上 堅治、加藤 聡子、程島 直子、手塚 満、稲田 章一、
（事務局）佐々木 宏子、松田 偉太郎、（有）レーダー出版センター）東原 直子、原 優子

調査結果では「くすりのしおり®」の情報が一般、薬剤師および医師のいずれもが価値があると評価、「製薬企業が患者を意識して作成している」および「情報に信頼性がある」という点で評価されている。



新版改訂は患者・医療消費者や医療担当者を含む医療環境の変化に対応できた「専門家が使用して説明する情報」でありながら情報公開されていていつでも確認でき、作成は販売している製薬企業であり作成基準に基づいてチェックされ常に更新されている情報であることを知るとともに、内容についてはわかり易く、専門的なところもあるが、知識としてはこの程度でよく、専門家とは話ができるものであるということではないだろうか。

患者と医療担当者間のコミュニケーションの促進ツールとして役割を十分に果たせるよう情報内容のレベルアップ

- 1) 「医薬品の適正使用には患者の協力が必要」の要請を行う
- 2) 医薬品に働きや効果、用法・用量、副作用について情報内容を詳細にする
- 3) 多剤併用の注意、医薬品の保管を追加する
- 4) 「くすりのしおり®」より詳細な情報が存在することを紹介する

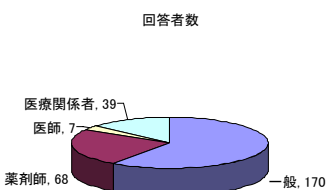
新版改訂でレベルアップした4点についてもわかり易く、よい改善であるとの意見が窺われた。『詳細な情報があることを紹介していることに4人中3人は「非常によいと思う」と回答』、『「くすりのしおり®」は服薬指導書であるとして、医療担当者が患者さん向けに加筆することができ、特に薬剤師には多剤併用への注意喚起、医薬品の保管について具体的に説明している』点について一般、薬剤師および医師とも了解しており、医薬品には情報とコミュニケーションが必要であることが了解されていることがわかった。

「働きや効果」や「副作用」については「もっと詳しい方がよい」と回答している人が10%以上いることは注意すべき点である。一般が、「もっと詳しい方がよい」と回答しているのは「副作用」、「働きと効果」、「用法用量」の順であった。副作用の表記については違和感なく受け入れられていることがわかった。

質問項目の意見欄では、一般の意見は大半が「くすりのしおり®」の情報価値を認めた上でさらにコメントしている。薬剤師の意見は「このくすりの働きと効果について」、「用法・用量」、「この薬を使ったあと気をつけていただくこと(副作用)」について、服薬指導の立場から現実的な手段などを意見している。医療関係者(医薬品関連企業)の意見では会社ごとで記載の内容が異なるためにわかりにくくなっていることを指摘していた。

回答者の属性およびアクセス状況

薬剤師が昔からよく知っている「くすりのしおり®」は今や一般の方がインターネットで検索し、アクセスしてきます。



調査方法

当協議会ホームページの「くすりのしおり」サイトを訪問し医薬品を検索している利用者を対象にアンケートによる調査を実施した。調査期間を2007年12月～2008年3月末とし、当協議会ホームページのトップページ、「くすりのしおり」サイトのトップページおよび検索結果の該当品目のくすりのしおり表示画面の3カ所に「アンケート依頼」のバナーを設け、バナーをクリックすることでアンケートフォームが開示され記入できるようにした。質問項目ごとに複数の回答ボックスがあり、該当ボックスをクリックすることで「・」が表示され回答され終了後に送信され、サーバーに集積される方式で調査した。調査項目は、「回答者の属性」、「アクセス状況」、「くすりのしおり」の情報の価値およびリニューアル項目の是非についてとした。特に、新版にリニューアルした意義と効果がどのように評価されているかを知るためにリニューアルした項目に対してその内容を説明して質問する形式とした。